

路

上で  
蹲る  
絵描き  
達

うざくま



IKENO  
池乃

DAI  
大



路上で蹲る絵描き達

# 目次

二〇〇四年

路上までの道のり …… 六  
二〇〇四年十二月 十三日(土) …… 一〇

路上デビュー前夜 …… 一二

二〇〇四年十二月二十一日(日) …… 一六

二〇〇四年十二月二十七日(土) …… 二五

二〇〇四年十二月二十八日(日) …… 二七

二〇〇四年十二月二十五日(土) …… 三一

二〇〇四年十二月二十六日(日) …… 三三

二〇〇四年十二月二十九日(水) …… 三九

二〇〇五年

二〇〇五年 一月 五日(水) …… 四六

二〇〇五年 一月 十一日(火) …… 四八

二〇〇五年 一月 十六日(日) …… 五〇

二〇〇七年

二〇〇七年	三月二十五日(日)	...	五一
二〇〇七年	七月二十二日(日)	...	五六
二〇〇七年	八月十四日(火)	...	五八
二〇〇七年	九月九日(日)	...	六四
二〇〇七年	九月十七日(月)	...	六八
二〇〇七年	九月三十日(日)	...	六九
二〇〇七年	十月八日(月)	...	七一

二〇〇四年

路上までの道のり

金、コネ、技術、全て無いまま絵描きとして独立。

あらん限りかつこつけてみたが、分かりやすくいえば仕事の無いイラストレーター。もっと簡単にいえば無職。ホンマすんません。

それまで五年間勤め上げたアミューズメントの現場の仕事がイヤでイヤで仕方なくなり、嫁さんを抱える身でありながら後先考えず六月末で退職。多少絵心があつたのでデザイン系の会社を五社ほど当たってみたのだが、もちろん全滅。三十過ぎの未経験者で実績がまるで無いおっさんを、イチから育ててくれるハートフルな会社なんて、この不景気にそうそうない。

求人誌を買い込んで隅から隅まで見てみるも、出来そうに無い、やりたくないで、絞り込んでいくと次の就職先はもはや地球上には存在しないことを知り、愕然とする。世間じゃニートだなんだと騒いでいるが、知らぬ間にニートのメジャーリーグにベンチ入りまで果たしてしまつていた池乃。貯金が底をつきかけた頃、ようやく事の重大さに気づき、慌てふためく。

自分に合った職がないなら、独立してしまえば良いと、冒頭のフリーイラストレーターという発想に行き着いたわけである。残り少ない貯金ともうすぐ貰える失業保険とで、数ヶ月はな

んとかなるだろう。絵で少しは稼げるようなら、実績も出来るしもう少し気長に就職口を探せるだろう……。

かくしてイラストレーターへの第一歩を全く計画性無く踏み出したわけだが、とにかく仕事がないと話にならない。その手のホームページを調べ上げ、ぶっつけ本番で営業活動を開始する。

地元京都の出版社をインターネットで検索し、片っ端から「仕事下さい」という内容のメールを送りつけ、半ば架空請求ハガキのようなやり方で仕事にありつこうとする池乃。もちろんそんな思いつきのゲリラ戦法が大会社に通じるはずも無く、三日待って返事が来たのが一社のみ。立ち上げて間もない小さな出版社のM編集長だけが唯一会ってみてもよいという返事を返してくれたので、早速編集部へ突撃することに……。

八畳くらいの編集部でM編集長に一通りイラストを見てもらい、  
「雑誌の売れ行きがよくなってねえ」

とか、

「今頼んでいるイラストレーターは実によくやってくれている」

などといった世間話をした後、仕事をもらえるかどうかには話が及ぶと、見事にいなされてしまった。もしかして財政難やよくできるイラストレーターの話は、仕事の口はないよということの布石だったのか!? 闘牛の牛並みのアプローチしか出来ん池乃は、実に扱いやすいキャ

ラなのだらう。

しかしながらM編集長から、京都の、ウチから目と鼻の先のところはプロのイラストレーターが住んでいることを聞き、参考になる話が聞けるかもと自宅に帰ってすぐさまメール送信。嫁さんと付き合っている頃もこんなマメではなかったぞ、自分……。

幸いにもそのFさんというイラストレーターから会ってもよいという返事が返ってきたので、彼の個展の打上げに池乃も参加することに。

飲み会の席では芸能レポーターのように質問をぶつけてみたが、彼はこれまでトントン拍子にメジャーへの道を駆け上っており、営業活動などほとんどしたことが無かったので、池乃が通れそうな仕事にありつくまでの獣道は用意されてはいなかった。どうも自由業の道は雲行きが怪しくなってきた。その後Fさんとは飲み仲間となり、池乃の暇も手伝ってしょっちゅう酒を飲み交わすようになる。

この頃池乃は路上販売に興味を持つようになる。路販なら紙とプリンタのインク代さえあればなんとか営業できる。しかしここで問題なのは、勝手に道端で営業して良いのかどうかという点。インターネットで調べてみると、どうやら警察や役所で許可をもらわないといけないらしい。そう簡単に許可が下りるとは思えないし、第一路上でゴザを広げているヤツらが皆そんな許可をもらっているとは到底思えない。ある飲み会の席でそのことをFさんに相談すると、後日大阪で路上販売をしている絵描きの大西あきらさんのホームページを教えてください。で、

またいつものメールでアプローチ……。

大西さんとは何度か他愛無いメールをやり取りした後、Fさんと三人で飲む約束をとりつけた。Fさんにも承諾を得て、なんとかお膳立ては整った。

飲み会の席で、大西さんに路上販売のことについて聞くと、かなり実践的な知識を得られた。

まず、路上販売はやはり許可を取らず勝手にやっているらしい。それで問題がないのかという、実はそうでもない。やはり警察に見つかるらと注意され、しつこいようだと噂では五万円くらいの罰金を取られることもあるらしい。実際、大阪は道頓堀の戎橋（通称ひっかけ橋）では路上販売で三名の逮捕者が出て、現在は戎橋での路販は事実上消滅している。まあそれは海賊版のCDを販売したからで直接路上販売が原因ではないようだが……。

さらに恐ろしいのはスジの方々の存在。こちらの方は法も理屈も通じないので、捕まったらどうなるかは想像が容易ではない。これには池乃も怯んだが、大西さんの経験ではよほど無茶をしない限り、コンクリ詰めで大阪湾に浮かぶようなことにはならないらしい。

大西さんが一年前に路上から遠ざかったのも、怖い方々のイキな計らいによるものが原因らしいのだが、今度一緒に路上へ出てみましょうということ。池乃も覚悟を決め、路上販売決行を約束する。大西さんにとっては路上復帰戦、池乃はデビュー戦。ついに流れがストリートに向けて動き始めた。

二〇〇四年十一月十三日(土)

大西さんとの打ち合わせで、池乃の路上デビューが十一月の二十一日に決定した。

夜、テレビをつけてみると、僕らの音楽という番組がやっており、川嶋あいゲストで出ていた。路上出身のボーカリストだ。

二〇〇一年、中学卒業と同時に福岡から歌手を目指し単身上京した彼女は、ある日事務所から契約を打ち切られ、夢への道が閉ざされる。慣れない東京での一人暮らしに追い討ちをかけられ、故郷の福岡に帰ることも考えるが、地元には期待をかけて東京に送り出してくれた友人があり、彼らの為にもここで夢を諦めるわけにはいかない。覚悟を決めた彼女は、路上ライブ千回を目標に掲げ、単身、渋谷の八千公前に立つ。

彼女の儂げな歌声と容姿のどこに、そのようなバイタリテイが潜んでいるのか。池乃が今まで躊躇していたように、路上に出るのはかなり勇気のいることだ。十六歳の名も無いアマチュア歌手が路上で歌うことの先に、どうやってサクセスを見出せるのだろうか。しかし、彼女はその後I Wishのボーカルとして見事にブレイクし、ソロアーティストの川嶋あいとしても成功をおさめた。スボ魂ドラマのような話である。

彼女はメディアに取り上げられるようになって、路上での活動を続けた。今の段階で、路上ライブ千回達成も目前となっていた。そんな彼女ですら、初めて路上に出たときは、客には